

おゆみ野南中だより



千葉市立おゆみ野南中学校

令和 2年5月7日(木)

第2号 学校だより 卯月

私達の日常を取り戻すために

校長 谷口 一浩

GW(がまんウイーク)、ステイホーム週間が過ぎました。生徒の皆さん、保護者の皆様は、どのように過ごされたでしょうか。ここでの頑張りや、この先結果として現れてくれることを切に願うところです。

新型コロナウイルス感染予防のための休校開始から二ヶ月以上が経ちました。緊急事態宣言が出されてから、経済活動の自粛や制限、そして外出自粛がいろいろな場面で呼びかけられています。ですが、外出する人の割合が期待したほど減らずに、緊急事態宣言の延長が発表される事態となったのは残念でなりません。そんな中、3年生の皆さんにとっては受け入れがたいニュースがありました。日本中学校体育連盟から夏の全国大会中止の発表です。運動系の部活動にとっては、最大の目標がなくなり、同時に、市総体、県総体等の開催も難しくなったと言えます。本校でも、体育祭の中止を決断しましたが、修学旅行は9月に実施の予定です。全国的な感染が収束して、是非とも実施できる状況になってほしいものです。

さて、現在は最も大切な授業ができていません。これだけ長い間授業ができないという経験は初めてです。これまで、地震や集中豪雨、台風等で学校が壊れたり流されたり、あるいは避難所として使用されたりと、通常の教育活動が一定期間できないという話は聞いていましたが、今まさに、私たちにもそれが降りかかっているといえます。たとえ学校が再開しても、当面は全員の生徒が登校して通常の学校生活が行われることは難しいでしょう。3密を避けつつ、かなり制限された中での授業や部活動となります。

休校中、生徒の皆さんは家庭学習をしっかりと行えているでしょうか。学校から出ている課題に加え、インターネットを利用すれば、市教育センターのドリルパーク、教科書会社等の無料学習ツール、動画配信等々、学習をサポートできます。意欲と工夫によっては、普段に負けない学びができるかもしれません。是非頑張ってみましょう。もし、分からないことや困ったことがあったら、遠慮せず担任の先生や学校の先生に連絡してください。

今、千葉日報に「コロナと闘う房の人」という記事が連載されています。その中に江戸末期の長州藩で活躍した高杉晋作の言葉が紹介されていました。

「おもしろきこともなき世を面白く住なすものは心なりけり」

言葉の解釈はいろいろあるでしょうが、この閉塞的な環境の中で、魅かれる言葉です。どんな環境、状況であっても、「面白くない」を「面白い」に変えられるのは、他人ではなく自分自身です。

先日、動画配信でミュージカル俳優の方々がオンラインで集結し、「レ・ミゼラブル」のナンバー「民衆の歌」を歌った動画を見て、心を熱くしました。また、ニュースで個々の家庭で、家でのキャンプや、レストラン風に食事をする様子を見て、楽しむ工夫をしているなど感じました。私自身も、屋外でのウォーキングをやってきましたが、屋内でも継続してできる何かを見つけたいと考えているところです。

現在のこの困難な状況を乗り越えるには、それぞれの人の気持ちの持ち方が大きいと言えるでしょう。私達一人一人が、自分の家族や友達、周りの人のことを考えながら、感染の収束に向けた努力を、工夫しながら続けていくことが必要だと強く感じます。